2012 年度 一般財団法人・日本ドッジボール協会 中央研修会 《 実技統一事項 および 統一基本動作 》 補足事項

1. 「オフィシャルタイムアウト」後の説明について。

「協議及び確認」を行った場合

「協議の結果、○番、アウト。ボール支配権の指示」→アウトの場合

上記の基本統一事項について、同一プレイヤーが、相手内野プレイヤーもしくは相手 外野プレイヤーの投球により、連続して当てられ、協議の結果「アウト」が確定した 場合は、どのプレイヤーからの投球でアウトの確定になったのかを 報告するものとする。

「協議の結果、〇番からの投球、〇番アウト、ボールの支配権の指示」

- 5 「指導、警告、退場、失格」での各審判員の動き
- ① オフィシャルタイムアウトの要求の場合
- カード提示する場合

主審、CM へ報告、確認→全員が共通認識した後、解散(主審が戻るまで解散しない)

→オフィシャルタイムアウトの報告→カード提示、ボールの支配権の指示

指導の場合

主審、CM へ報告、確認→全員が共通認識した後、解散(主審が戻るまで解散しない) →指導→オフィシャルタイムアウトの報告、ボールの支配権の指示

② 主審のオフィシャルタイムアウトの宣言の場合

・カード提示する場合

副審へ招集依頼→主審、CM へ報告、確認→全員が共通認識した後、解散(主審が戻るまで解散しない)→オフィシャルタイムアウトの報告→カード提示、ボールの支配権の指示

・ 指導の場合

副審へ招集依頼→主審、CM へ報告、確認→全員が共通認識した後、解散(主審が戻るまで解散しない)→指導→オフィシャルタイムアウトの報告、ボールの支配権の指示

※②の招集する理由として、指導の複数回によるテクニカルファール判定に至る場合や、テクニカルファールの複数回による退場判定に至る場合も含め、最も重いファールに至る可能性がある事象については、コート上にいる全審判員が状況を把握していることが必要と判断し、必ず全員で共通理解をするものとする。